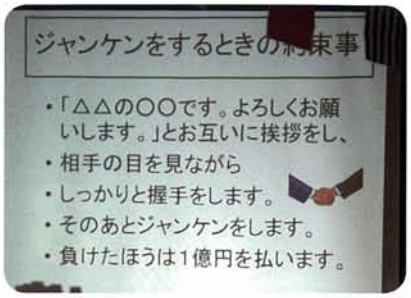

夏休みキッズ・ビジネススクール in えどがわ

9:00～
開会式→ゲーム
→会社名決定
→商品企画

1

スーパートレーナーの篭島京二氏（税理士法人ドリーム24・チーフコンサルタント）から「自分の頭で考えて自分で行動しましょう」と述べられ一日がスタート。あいさつはビジネスの基本。朝一番のゲームを通じてそれを学ぶが、時間が経つと忘れてしまい、注意される子どもも。5つの会社に分かれた23人の子どもたちは、地域も学校もバラバラな初対面同士。最初は緊張していたが、いつの間にか積極的に話し合うようになり、会社名と役職が決定。続いて商品企画。お客さまに喜んでもらうためには？　製造量、製造時間などを確認し、商品がいくらでどのくらい売れるのか議論。

Promote Financial Literacy

2 Community

学校では教えてくれない
小学生向け 1日ビジネス体験

大人たちはどうして働いているんだろう。
社会の仕組みを徐々に理解し始める小学生時代。
お金は簡単に得られるものではないと知る時だ。

まちの企業経営をサポートする「税理士法人ドリーム24」（東京都江戸川区）。地域のために何かをしようと、3年前から「夏休みキッズ・ビジネススクールinえどがわ」を開催している。

今年は8月8日に開催され、小学5・6年生23人が参加した。5つの会社をつくり、銀行からの借り入れ、商品の仕入れ、販売、お金の返済、納税、利益分配といった一連の流れを1日で体験する。

子どもたちは学校で学んだ図画工作のテクニックや計算処理を駆使して、会社経営に全力投球した。

子どもたちが現実の厳しさを知るのは銀行からの借り入れだ。バーチャル銀行には、CSR（企業の社会的責任）活動の一環でボランティア参加する三菱東京UFJ銀行の行員が待ち構え、子どもたちの事業計画書を審査する。

学校では教わらない、社会の厳しさ。さまざまな問題をチームワークで乗り越えられるか？

親子の声（参加者アンケートより）

1日でこんなに変わりました

子どもたちの感想

- お父さんお母さんも会社では協力し合って仕事をしていることが分かりました。
- 社会に出ると、千円に満たないお金を稼ぐのも大変なんだと思った。
- ストラップの材料を何個買えばいいか。売れ残らないように買うのが難しかった。
- お金は借りた分だけ返すものだと思っていた。利息があるなんて知らなかった。
- 完売したけど儲からなかった。値段をもう少し高くするべきだった。
- 商品を売るときは本当に商売をやっている感じがしてとても楽しかった。
- みんなで考えたことを実際にみんなでやってみることが大事なんだと思った。

保護者の感想

- 想像していたよりもプログラムが充実していて驚きました。自分の将来について、職業について、私たち両親について。色々なことを考える機会になったようです。
- 集計作業で率先してみんなをまとめる様子がうかがえた。親として自分の子どもの新しい一面を見た気がした。
- 利子って何？　税金って何？　というクエスチョンを言葉ではなく実体験で理解できたように思います。
- 最近は子どもの“ごっこ遊び”が減ったような気がします。このスクールは真面目な“ごっこ遊び”であり、将来への夢や希望が生まれていくと思います。

16:20～
決算→借入金返済・納税→最終利益・給与支給→修了式

5

販売後は会社に戻りいよいよ決算。売上高を計算し、損益計算書に数字を書き込んでいく。もちろん、売上金はそのまま収入にはならない。お金を借りた銀行に利子を付けて返済し、バーチャル税務署にも納税（実際にはユニセフに募金される）。その後ようやく、最終利益がみんなに分配される。「1644円ももらえる！」。思いがけない結果に興奮する子どもも。給料袋を手渡されると、皆どこか誇らしげな表情を浮かべた。普段の小遣いより喜びもひとしおだろうが、お金より大事なものを得たはずだ。最後に久野豊美実行委員長（ドリーム24所長）から修了証書を受け取り、長い一日が終わった。

15:00～
販売

4

地元商店街にスペースを借りて販売。保護者だけでなく通りすがりの通行人もお客さま。「安いよ安いよ～」。しかし大人は「ちょっと高いなあ」と財布の紐が堅い。仕方なく値下げに踏み切る会社もあったが1時間後、全社が完売！

13:00～
製造・広告

3

銀行から借り入れた資金をもとに材料を調達。各社それぞれ商品（ドリンク、プラ板キーホルダー、携帯ストラップ、タオル、お菓子）を製造する。お店をのぞいてもらえるよう広告ポスターも作成。最終準備で接客マナーを学び、いざ売り場へ！

10:30～
事業計画→銀行借入

2

午前中最大のヤマ場。銀行からお金を借りるべく、みんなで話し合い事業計画書をバッチリ作ったはずだったが……。銀行ではすべての会社が「これではお貸しできませんね」と、事業計画の甘さを指摘される。また一からやり直し。現実は厳しい！

篭島京二 スーパートレーナー・税理士法人ドリーム24（ひさの会計事務所）チーフコンサルタント

経済は紙切れだけではありません

「キッズ・ビジネススクール」を始めたのは、私が勤める会計事務所の所長が「地域で何か面白いことをやろう」と言い出したのがきっかけです。我々が職業会計人として何ができるかと考えた時に、日本の将来を担う子どもたちに正しい経済、道徳教育を施すのが良いだろうと思い浮かんだのです。

ライブドア事件の直前、ある子ども向け経済教育プログラムがテレビで紹介され、参加した子どもたちが尊敬する人物を「ホリエモン」と答えていたのには、違和感がありました。経済をつくっているのは紙切れだけじゃない。正しいことを教える必要があるんじゃないか、と思いました。

私たちのプログラムは、社長を育成するようなものではありません。幸せな人生を送るにはどうすべきかを考えることができるように、チームワークで壁を乗り越える力、自分の頭で考えてアイディアを出し、チャレンジする精神を養います。

1日のビジネス体験では、さまざまな困難があります。例えば商品の値段設定は大人でも悩むことだから、子どもにはなおさら難しいことですね。学校の勉強では○か×かの正解があるのに、値段設定に正解はない。テストは100点を取れるまで頑張る必要がありますが、ビジネスでは70点くらいの答えでも先に進まなければ0点になることもあります。この違いに子どもたちはとてもストレスを感じたようですね。

子どもたちに分かってもらいたいのは、「ありがとう」という言葉がお客さまから出たら、成功だということ。お客さまに喜ばれること、社会のためになることが、ビジネスの前提だと知ってもらいたいですね。午前中は「客がさぁ」と話していた子どもたちも、午後には「お客さまが」と呼び方を変えて話せるようになりましたよ。

現在このイベントは銀行スタッフを含め、すべてボランティアで運営されています。そのため、できることが限られています。企業から商材協力などがあれば、子どもたちの商品アレンジも広がります。どんどん参加してもらいたいですね。